

2015年9月12日 手賀沼船上調査



© hanzawa



魚の顔



© t.momose

モツゴ



© t.momose

タモロコ



© t.momose

ヌマチチブ



© t.momose

ヨシノボリ (クロダハゼ)

魚の顔



© t.momose

タイリクバラタナゴ



© t.momose

コウライギギ



© t.momose

テナガエビ



© t.momose

ワタカ

手水研 手賀沼船上調査
プランクトン(担当:梶)

2015. 9. 12

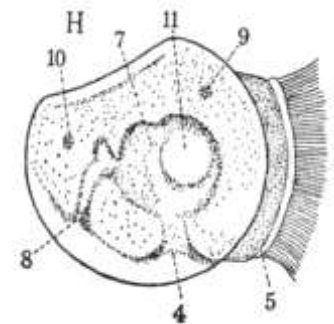
測定点 ①:船戸下 09:12 曇り 気温:30.4℃、水温:24℃
泥が多い。ケイソウ類が少し。オニトゲワムシ、線虫。

測定点 ②:岩井新田 11:05 曇り 気温:31℃、水温:25℃
泥が多い。①と似ている。クンショウモがやや多い。

測定点 ③:フィッシングセンター 12:55 晴 気温:31℃、水温:26℃
濁り少ない。通常の夏のパターン。
ケイソウ各種、緑藻ではクンショウモ各種、藍藻少し。
ハネウデワムシ、(ツボ、フクロが少ない)
マルミジンコ、(ケンミジンコ類見られない)

測定点 ④:ビオトープ(岡発戸新田) 13:25 晴 気温:30℃、水温:26℃
濁りややあり。③と似ているが種類は多い。
ケイソウ各種、緑藻ではクンショウモ各種、藍藻少し。
ハネウデワムシ、コツボワムシ、ドロワムシ、(ツボ、フクロが少ない)
ゾウムジンコ、(ケンミジンコ類見られない)

* 測定点③, ④で、二枚貝の幼生(ベリジャー、被面子幼生)と思われる
プランクトンが見つかった。カワヒバリガイのD型幼生の可能性



二枚貝のベリジャー幼生
(カキ類):北隆館、日本動物図鑑より

2015年12月12日 利根川調査



タイリクバラタナゴ



オイカワ

2016年3月12日(土) 手賀沼船上調査



ドブガイ



ウナギ

プランクトン(担当:梶)

天候:曇り、東ないし北東の風 1~2m

気温:10°C (出航時 9:10)

* プランクトン概況

水深が浅かったこと、風があったこと、船を下りて歩いたことなどが原因で、濁って泥が多かった。

この季節、ケイソウ類が多い。緑藻(ミカツキモ)、藍藻(メリスモペディア、ユレモ)は少ない。

動物プランクトンも少ない。ワムシは常連のツボワムシが少なく、ヒルガタワムシは目立つ。ミジンコは少ない(ノウプリウスは居た)。

原生動物は小さい鞭毛虫類が多い。繊毛虫ではゾウリムシ類が少し居た。

* 採取場所(貝の調査で停船した近く 4か所)による特徴

大津川河口右岸

09:22、水温:9.5°C

植物プランクトン:ホシガタケイソウが多い。単細胞のもの(クチビル、ハリ、フナガタ)が良く動く。緑藻のミカツキモ、藍藻のメリスモペディアが居た。

動物プランクトン:ヒルガタワムシは少し居る。ミジンコは見られなかった。

船戸下

10:18、水温:9.3°C(気温:7°C)

大津川河口とほぼ同じ。繊毛虫類、ワムシ類はやや多い。

岩井新田(ハス繁殖地東側)

11:37、水温:8°C(気温:8°C)

プランクトンの密度が低い。ホシガタケイソウが居ない。小型のケイソウが良く動く

染井入橋沖

13:55、水温:8°C(気温:8°C)

プランクトンの密度低いが、泥の中の動物(クマムシ、ヒメミズ、ヒルガタワムシ)がみられた。

手水研 手賀沼船上調査（プランクトン写真）

① 大津川右岸河口



ケイソウ類（群）ホシガタケイソウが多い



盃型のケイソウ（?）

② 船戸下



メリスモペディア（藍藻類）



ユレモ（藍藻類）を飲み込んだ繊毛虫



ワムシ類の群



ウサギワムシ？

① 岩井新田

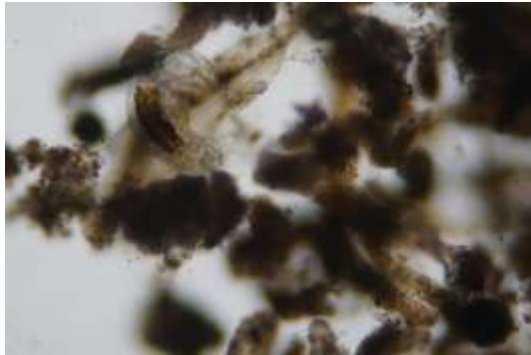


小粒単細胞のケイソウ (ヒメマルケイソウ)



ツリガネムシの一種 (カルケシウム)

② 染井入り橋沖 (泥の中にいる底生生物)



クマムシ



ヒメミミズの一種